

こらぼよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション(共同・協働)
と、~しようよの組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ



第37号 2016・夏

男女共同参画週間 記念講演会

「元いじめられっ子の女性落語家奮闘記」

もさんから年配の方までたくさんの方が参加されました。今回も手話、要約筆記、託児とサポートも充実、ゆったり楽しみながら、いじめのことや男女共同参画について考える時間となりました。

オープニングは、小巻健さんのギター演奏で、素敵な音色に癒されました。

さて、講師のぽんぼ娘さんは、ふくよかな体から、まるでアニメのキャラクターのような高い声で会場とキャッチボールをしながら、うどんの食べ方や小話で心をつかむのはさすがです。師匠との出産時のエピソードや、当日車で送ってくれた旦那さんや一緒に来た子どもさんとのほのぼのとした話を交えながら、笑い声が何度も上がる楽しい出だしでした。一転して後半は、自身のいじめられた体験談になり、保育園から小学6年までの、まわりからのいじめや、先生の無理解、家族にも相談できず、自分を責め何度も自殺を思った話には、涙が出そうでした。当時は「いじめられる方にも責任がある」という時代でした。けれど、たまたま見ていた吉本新喜劇で間寛平さんのお芝居に力づけられ、生きる



かつら ぽんぼ娘さん

勇気ももらい、勉強に力を入れて他県の高校へ進学して、やっと友達ができたとのこと。「今はいじめる人が100%悪い」という風潮ですが、「いじられキャラ」というのがある。今の子は空気を読むので、自分が不本意な扱いを受けても、相手のことを気にしたり、場の空気を読み、笑って流すうちにいじめにつながることもある。テレビの芸人たちはプロだが、子どもがまねをするのは危険。外科医はメスで手術をするが素人にはできない。いじめた方は軽い気持ちでも、心の傷は深く癒えにくい。いじめを真剣になくして欲しいと話されました。

時間がなく、男性社会であろうお笑いの世界での奮闘記が聞けなかったのが残念でしたが、最後にたっぷり聞かせていただいた落語「ちりとてちん」。古典落語は男性中心で、女性が語るの難しいといわれますが、登場人物を嫁と姑の話にして、でも「女」や「嫁姑」の嫌なイメージを出さず、「人間」の本質的なおかしさとして表現したところが、男女共同参画にふさわしいアレンジで、楽しく聞かせていただきました。

同時開催「かるたで防災！」



保育園から5年生までの子どもたちが集まり、まず、七夕さまの短冊づくりをしました。「サッカー選手になれるように」「毎日がクリスマスになりますように」などの願いがありました。色紙でたくさんの飾りも作って賑やかな笹飾りが出来上がりました。

次に子どもたちは、摂津市男女共同参画センター「男女共生防災かるた」の絵札を見ながら、「防災」について勉強しました。かるた取りがスタートすると、頭を突き合わせて、みんな頑張りました。取り手が重なっても自分たちで話し合い、大きな子が小さい子に譲ったり、じゃんけんしたりして解決していました。子どもたちに学ぶことがたくさんありました。



女性の活躍を推進するには

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づいて、今年の4月から301人以上の労働者がいる会社では、活躍状況の把握、行動計画の制定、情報の公表などが義務付けられました。国と地方自治体も行動計画を策定することになっており、女性の社会進出の推進が期待できそうです。

さて、28年版男女共同参画白書によると、各分野の「指導的立場」に女性が占める割合は徐々に増加しているものの、医師、歯科医師、弁護士、裁判官、大学講師以上では約2割にとどまっています。しかも、衆議院では約1割、国家公務員は本省課室長相当職の女性の割合はわずか3.5%です。政府の『2020年に指導的立場の女性割合を30%程度にする』とした目標にはまだまだ遠いのが現状です。

政策や意思決定の場に女性が少ないと、男性の目からみた問題解決に偏りがちなことは当然と言わざるを得ません。もっと多くの女性の視点があれば、教育や福祉などの分野でも全体の理解が深まり、よりよい政策が検討される可能性があります。そのためにも女性の政治家が増えるような環境づくりや、社会や私たちの意識の改革も必要ではないでしょうか。

参画セミナー（出前講座）

続「漢字からみる男女共同参画の歴史」

と き：8月19日(金)10:00~11:30

ところ：自由が丘公民館

講 師：森田 充代（古典文学講師）

「女のものさし・男の定規」

と き：8月25日(木)13:30~15:00

ところ：志染町公民館

講 師：黒崎 輝美
（健康生きがいづくりアドバイザー）

女性のための相談室

火曜・木曜 午前10時~午後4時
電話相談・面接相談（予約制）
女性問題相談員が女性の立場に立ち、
問題解決に向かえるようサポートし
ます。まずはお電話ください。



新着図書のお知らせ

『子どもはみんな問題児』

中川李枝子著 新潮社 2015年



中川さんは「ぐりとぐら」の作者で他にも児童文学を多く出版されている。17年間勤められた保育の現場での体験に基づく内容なので、説得力がある。

本は読み聞かせるのではなく、子どもと一緒に読むものとか、子どもはお母さんの鏡です等、大人が発想の転換を迫られる一冊です。

『おひとりさまの最期』

上野千鶴子著 朝日新聞出版 2015年



作者に介護保険の被保険者証が届いて自分が高齢者だと認識するところから本文が始まる。世は超高齢化社会。当然おひとりさまの人口も増える。おひとりさまがその人生の終末をどう迎えるのか、在宅ひとり死は可能か？誰でも必ず迎える「死」に対して冷静に、かつ詳細に書かれている。一度は真正面から向かい合いたいテーマです。

三木市男女共同参画センター

愛称 こらぼーよ

三木市福井1933-12

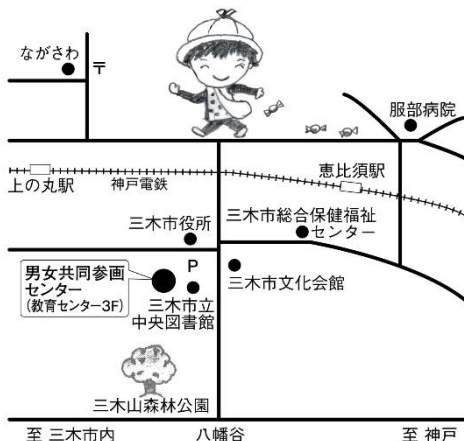
三木市立教育センター3階

（三木市立中央図書館横）

TEL&FAX 0794-89-2331

開館時間 9:00~17:00

休館日 土・日・祝日・年末年始



* 編集後記 *

ラニーニャ現象の影響で、今夏は猛暑になるのだとか
リオ五輪も開催され、今年も暑い（暑い）ひと夏になりそうですネ。
半年前に我が家にやって来た垂れ耳ちゃん。彼のお蔭でうちはエアコンがフル稼働しそうです。

(Nao²)

